



歌碑を巡る旅

1688年相馬中村藩第5代藩主相馬昌胤公は、松川浦の名勝を新名所として公認してもらうため、12カ所を選んで絵師に描かせ、時の東山天皇から勅許を受けました。天皇からは、一つ一つの名所に対して、公卿作の和歌が添えられてきました。



松川十二景和歌

松川十二景和歌 &歌碑を巡る旅

相馬市千客万来館

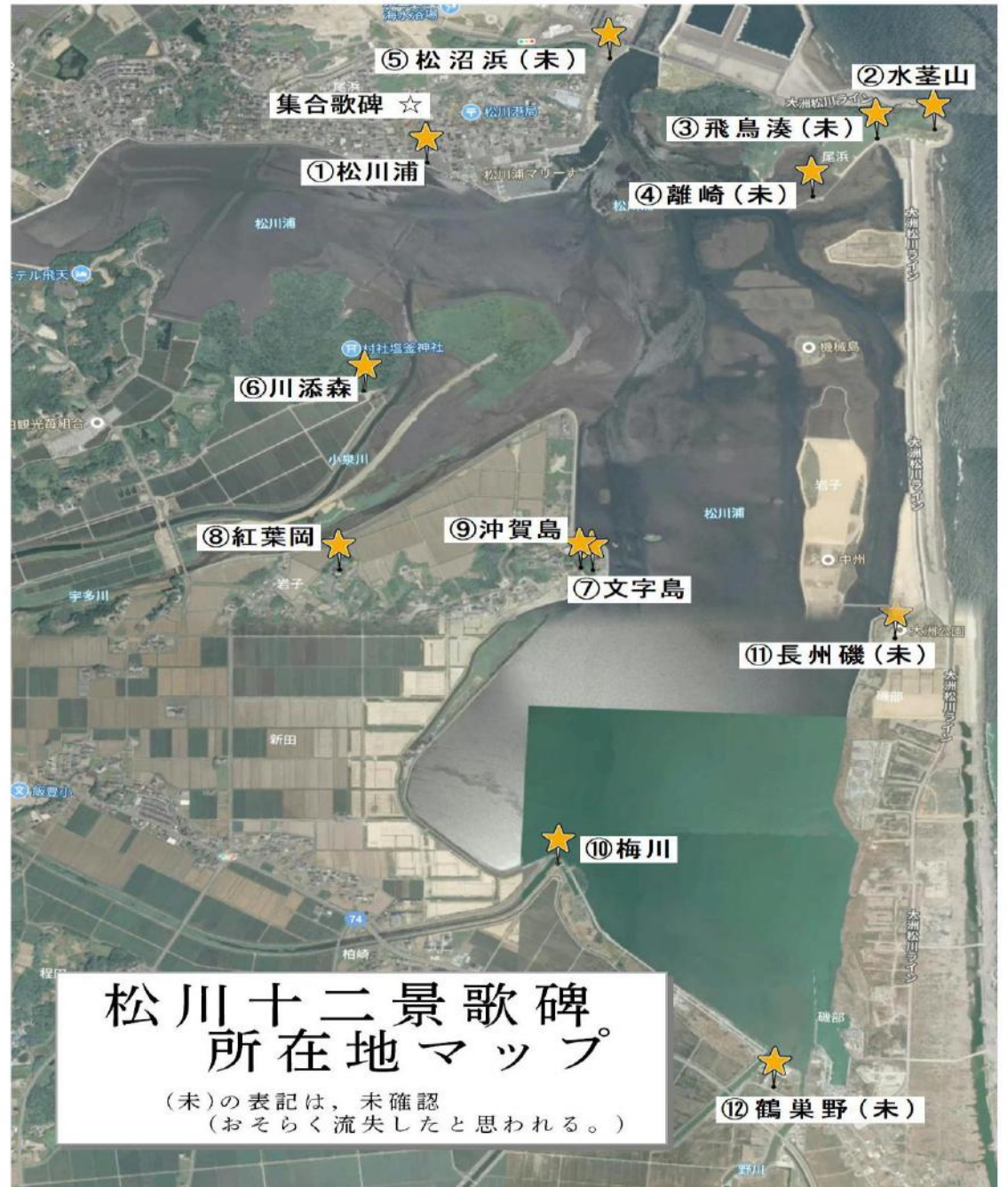


○松川浦は、相馬市の東部にある福島県内唯一の潟湖です。風光明媚な風景は、日本三景の松島になぞられて「小松島」とも評されています。日本百景、福島県立公園にも指定されています。

○今から330年ほど前の1688年相馬中村藩第5代藩主相馬昌胤公は、松川浦の名勝を新名所として公認してもらうため、12カ所を選んで絵師に描かせ、時の東山天皇から勅許を受けました。天皇からは、一つ一つの名所に対して、公卿作の和歌が添えられてきました。

○その後、松川十二景和歌を後の世に語り継ぐため、相馬市等が歌碑を設置しました。津波に流されてしまったものもあるのが残念ですが、江戸時代の人が見た松川浦の様子を思い浮かべながら歌碑を巡ってみてはいかがでしょうか。

※参考文献『松川浦ものがたり』
和歌の口語訳は、文学博士岩崎敏夫氏による。



集合歌碑 相馬市尾浜字船越

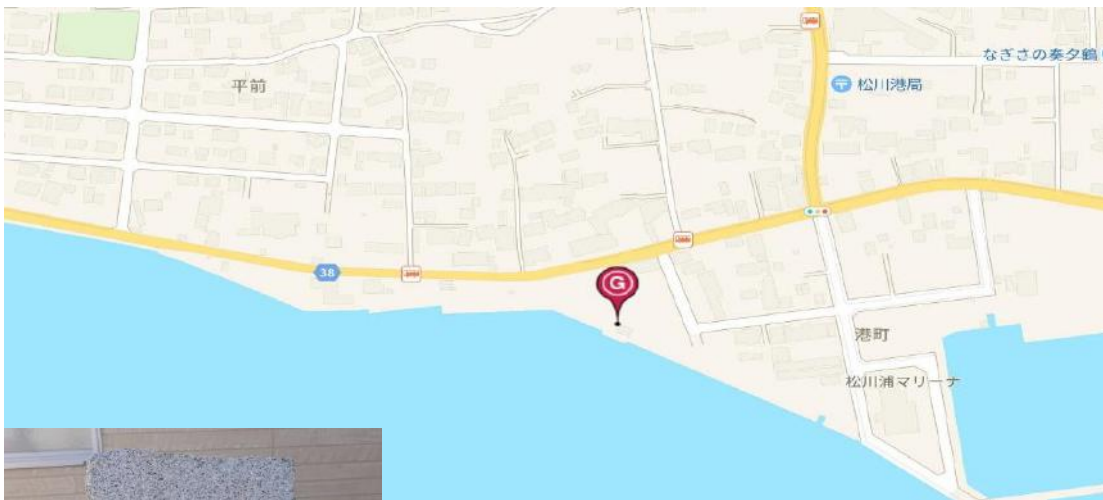


1924年(大正13年)に建立。もともこの歌碑は水荃山(鶉ノ尾岬)の夕顔観世音堂の境内にありました。昭和18年に旧松川地区が現在の松川地区に移住させられた時に、一緒に船越観音堂境内に移設されました。階段を上って左側にあります。



1 松川浦

相馬市尾浜字船越



潮干狩遊漁券発売所のとなりです。

春やなほ たぐひも波の 曙に
かすむ緑の 松川の浦

ほのぼのと春霞に明ける波静かな緑の松川浦の春景色は、ほかにくらべるものがないほどすばらしい。



2 水荃山

鵜ノ尾岬トンネル南側駐車場から階段を上り鵜ノ尾岬へ進みます。



うつし絵も 及ばんものか 桜咲く

水荃山の 春の面影

桜の花盛りの水荃山のすばらしい春景色には、どんな絵もとうていおよばないだろう。



3 飛鳥湊 流失?



よる舟も とめて湊の名をや知る
 明日は飛鳥の 変る浮寝に

飛鳥の湊という由来は、舟を寄せてみて初めて分かったことだ。「きのうの湊は今日の瀬となる」という古歌のように変わりやすいのが人の世の常なのであろう。

4 離崎 流失?



いずれも鶺ノ尾岬トンネルを抜けた南側にある「鶺ノ尾岬夕陽の広場駐車場」から鶺ノ尾岬栈橋を進んだところになります。

はなれ崎の岩山の松には、雪が積もって冬の寒い景色もかえってすがたの趣があるものだ。

冬寒き 色あらわれて 離崎

岩根の松ぞ 雪に木高き



岩子から離崎・飛鳥湊を望む

5 松沼浜 相馬市尾浜

流失?



船寄せて 涼しき浪に 月をなほ
まつぬの浜の 松の下風

まつぬの浜の松の下に、舟を寄せて月を待っていると、涼しい風が波の上を吹いてくる。



松川浦大橋下御製碑のある公園より松沼浜を望む

6 川添森 相馬市和田



夕月の光も清い川添の森にいますと、涼しい秋の初風が森を洩れて吹いてくる。

夕月の光も清く川添のもりて
涼しき秋の初風

7 文字島 相馬市岩子



近くの高台にある塩釜神社境内に設置されています。



晩秋になって友におくれた雁の一群が、寒い水に影をうつしながら、文字島の辺を飛んでゆくことよ。

冬寒き水にもうつす 文字島や
おくれし秋の雁の一つら

8 紅葉岡 相馬市岩子



長命寺境内に設置されています。



紅葉の岡という名前の通りに、この紅葉の色の鮮やかなことは、いく度も染めた結果であろう。



名もしるく 幾しほ染めて 色や濃き
紅葉の岡の 秋のこずゑは

9 沖賀島 相馬市岩子



歌碑の設置場所は、付近の高台にある塩釜神社境内です。



↓文字島(左)と沖賀島(右)

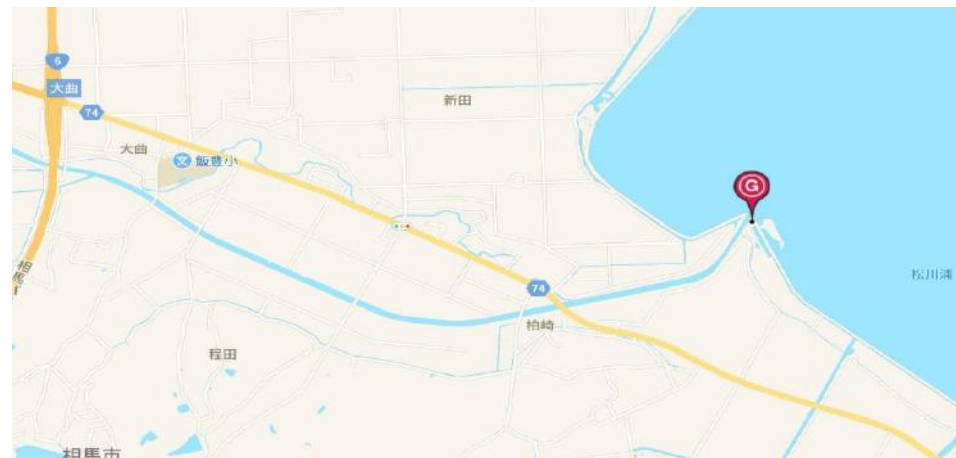


沖が島 見る目涼しき 夕浪の
寄する葦辺ぞ たぐひしもなき

沖が島の葦辺に夕浪が涼しく寄せている様子は、たとえるものがないくらい趣がある。



10 梅川 相馬市柏崎



さす舟の 棹の雫も 匂ふなり
浪も花咲く 春の梅川

舟に棹さすそのしづくさえ匂うほどだ。ここは梅川なので波のしぶきにも花が咲く感じである。

細い道を抜けた先になります。松川浦の別な表情を楽しめます。



11 長州磯

流失?

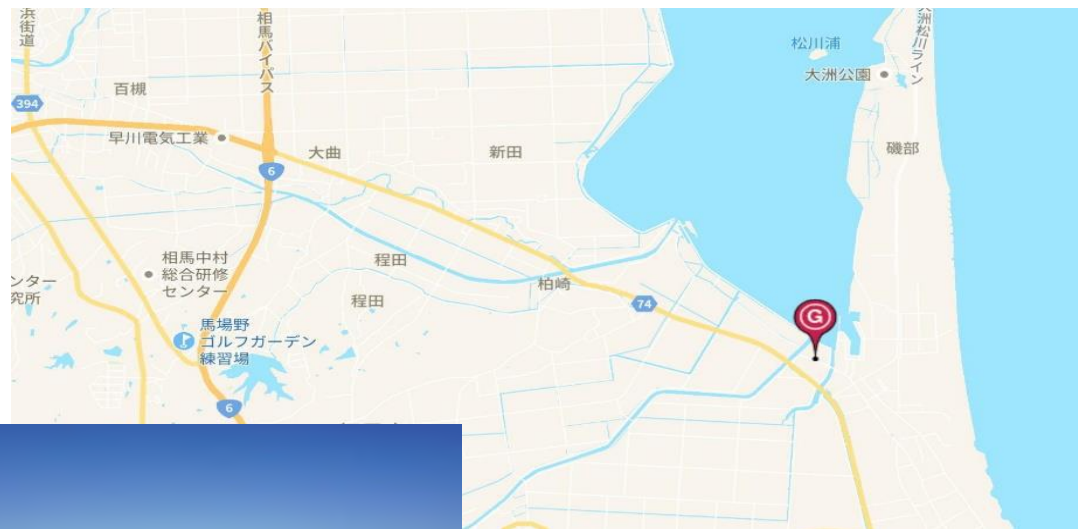


真萩咲く 長州の磯の 夕なぎに
 汝も飽かずや あさる雁がね

萩の咲いている長洲の磯の夕凧の渚にたたずんでいると、雁たちも磯でいつまでも飽きずに餌をあさっていることだ。

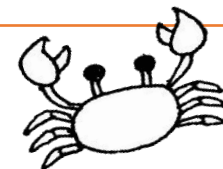
12 鶴巢野

流失?



住みなれて
 己が名に負う 鶴巢野に
 千代経る雛の 栄えをも見む

千年も長生きするという、めでたい名を自分の名として持っている鶴よ。その名の通りいつまでも長生きして、子孫を栄えさせてもらいたいものだ。



旧大洲公園より、松川浦を超えて阿武隈の山並み

